

ネコちゃんの
ワクチン接種は
定期的に。



オーナー名		様
猫の名前		ちゃん
次回接種日	年	月

注意事項

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



大切なネコちゃんを感染症から守るために。
ネコちゃんのワクチン。





なぜワクチン接種が必要なの？

子猫は生まれてからしばらくは、母猫から譲り受けた免疫で感染症から守られます。しかし、残念ながらその免疫は長続きしません。この免疫は徐々に低下し、子猫は病気に対して無防備になってしまいます。ワクチンを接種することで、免疫機能を持続することができるのです。



定期的なワクチン接種が必要です。

子猫の時にワクチン接種をすることで得る免疫で、一生病気から守られるわけではありません。猫を一生感染症から守り続けるためには、定期的なワクチン接種が必要です。



獣医師に相談しましょう。

猫のライフスタイルや、地域ごとの病気の発生状況などがありますので、獣医師とよく相談し、最適なワクチンプログラムを選びましょう。

大切な猫ちゃんのためにも ワクチンで予防できる病気は 予防しましょう。

猫の主な感染症

猫ウイルス性鼻気管炎

初めは咳やくしゃみ、発熱、鼻水など風邪のような症状が続きます。目やになどが多くなり、角膜炎や結膜炎を引き起こします。感染力が強く、他のウイルスとの混合感染も多いため、特に子猫の場合重篤化し、死亡する場合があります。

猫カリシウイルス感染症

一般的に咳、くしゃみ、発熱、鼻水など、風邪に似た症状が続き、悪化すると舌や口のまわりに水泡や潰瘍がみられるのが特徴です。他のウイルスとの混合感染で合併症などを引き起こすと、死亡する場合があります。

猫汎白血球減少症

猫パルボウイルス症としても知られており、もっとも危険な急性感染症の1つです。子猫や若い猫に発症が多く、嘔吐、強い腹痛、急速な脱水などの症状がみられ高い死亡率を示します。



ワクチン接種後に注意すること。

ワクチン接種後、一時的に元気や食欲がなくなったり、疼痛、腫脹、発熱、嘔吐、下痢等を起こすことがまれにあります。また、過敏な体質の猫では、アレルギー反応が起こることがありますので、注意が必要です。獣医師の指示に従い十分に観察し、異常が認められた場合には直ちに診察を受けてください。



1

すぐに帰宅させる場合は、なるべく安静な状態で帰宅させ、帰宅後も当日はよく観察してください。

2

2～3日間は、過激な運動、交配、入浴又はシャンプーなどでストレスを与えることを避け、快適な環境においてください。

3

十分な免疫力が得られるまでには少し時間がかかるので、安心は禁物です。数週間は、他の猫との接触を避けてください。

4

ワクチンによる免疫は一生続くものではありません。定期的なワクチンの追加接種を受けてください。